

長崎嚥下リハビリテーション研究会

第3回 摂食嚥下コーディネーター
資格認定試験問題

平成23年 3月27日(日)

試験時間 10:00～12:00

会場 : 佐世保共済病院 8階講堂

画像問題

画像(1~3)を見て、問題に答えなさい。

画像(1) この症例では、ある特徴的な動きが見られるが、それは何か選びなさい。

1. 固縮
2. 振戦
3. ミオクローヌス
4. 多動
5. ディスキネジア

画像(2) この検査で用いている器具の名前を選びなさい。

1. ノーズクリップ
2. 舌圧子
3. 鼻息鏡
4. 鼻漏鏡
5. 鼻側鏡

画像(3) この装具の名前を選びなさい。

1. P A P
2. C A P
3. P T P
4. P L P
5. A C E

問 1 患者のQOLを評価する上で最も重要なものを一つ選びなさい。

1. 本人の満足感
2. 家族の意向の実現
3. 生存期間の延長
4. 在院日数の短縮

問 2 臥床患者の嘔吐直後の対応で適切なものを一つ選びなさい。

1. 側臥位にする
2. 胸部を叩打する
3. 下肢を挙上する
4. 腹部をマッサージをする

問 3 褥瘡の初期症状を一つ選びなさい。

1. 発赤
2. 水疱
3. びらん
4. 壊死

問 4 医療にエビデンスを用いることの第一義的な目的はどれか一つ選びなさい。

1. 最適な医療の実践
2. 医療費の抑制
3. 医療事故の予防
4. 臨床研究の推進

問 5 加齢に伴う変化の特徴で誤っているものを一つ選びなさい。

1. 高齢者の検査値の分布幅は一般成人より大きい。
2. 老年症候群は加齢に伴う機能低下と深く関係する
3. 外部環境の変化に対する恒常性の維持は容易となる
4. 生活機能保持曲線は生存曲線よりも勾配が急である

問 6 体温調節中枢はどれか一つ選びなさい。

1. 延髄
2. 視床下部
3. 小脳
4. 橋

問 7 仰臥位安静の患者の褥瘡好発部位を一つ選びなさい。

1. 仙骨部
2. 内踝部
3. 腸骨部
4. 大転子部

問 8 気管内吸引で正しいのはどれか一つ選びなさい。

1. 1回の吸引は30～40秒とする
2. 吸引圧は500～600mmHgとする
3. 無菌操作で実施する
4. 吸引後に体位ドレナージをおこなう

問 9 食中毒の原因菌でないのはどれか一つ選びなさい。

1. 黄色ブドウ球菌
2. レジオネラ
3. 大腸菌
4. 腸炎ビブリオ

問 10 53歳男性。交通事故に遭い高次脳機能障害が残った。家族との会話はできている。保健師がおこなう家族への保健指導で正しいのはどれか一つ選びなさい。

1. 「リハビリテーションの効果は無いと言われています。」
2. 「日常会話に支障が無ければ、失語症に関して心配することはありません。」
3. 「半側空間無視があることが多いので、本人の動作に気をつけてください。」
4. 「脳卒中の方のためのディケアをお勧めします。」

問 11 全身疾患を有する患者の栄養摂取状況の評価の指標で正しい組み合わせを選びなさい。

- a. BMI
- b. 体温
- c. 動脈血酸素飽和度
- d. 血清アルブミン値
- e. HDL - コレステロール値

1 (c d e) 2 (a d) 3 (b c d) 4 (a d e)

問 12 薬剤とその典型的副作用との組み合わせで正しい物を選びなさい。

- 1. 抗うつ薬 不安発作
- 2. 抗不安薬 脱力
- 3. 向精神薬 幻覚
- 4. 抗てんかん薬 錐体外路症状
- 5. Parkinson病治療薬 無月経

問 13 次のうち廃用症候群として誤っているものを一つ選びなさい。

- 1. 静脈血栓症
- 2. 骨粗鬆症
- 3. 起立性低血圧
- 4. 外反母趾
- 5. 褥瘡

問 14 高齢者の脱水の症状に関する次の記述のうち、適切でないものを一つ選びなさい。

- 1. 尿量が減少する
- 2. 腋下の湿り気がなくなる
- 3. 体温が低下する
- 4. まなざしがうつろになる
- 5. 舌が乾燥する

問 15 寝たきりによる合併症とその予防に関する次の組み合わせのうち適切なものを一つ選びなさい。

1. 関節拘縮 カルシウムの摂取
2. 残尿 水分の制限
3. 精神機能低下 個室への移動
4. 起立性低血圧 座位の訓練
5. 便秘 浣腸の実施

問 16 リハビリテーションの専門職に関する次の記述のうち最も適切なものを一つ選びなさい。

1. 理学療法士は主に家事動作訓練をおこなう
2. 作業療法士は主に歩行訓練をおこなう
3. 義肢装具士は主に義肢装具の採型、製作、適合をおこなう
4. 言語聴覚士は主に生活全般にわたる訓練をおこなう
5. 視能訓練士は主に嚥下障害のリハビリテーション、評価をおこなう

問 17 脳に関する次の記述のうち誤っているものを一つ選びなさい。

1. 大脳は、前頭葉、頭頂葉、後頭葉、側頭葉に区分され、感覚や運動、言語などの中枢が存在する
2. 間脳には、視床と視床下部、脳下垂体があり、ウエルニッケ中枢もここにある
3. 脳幹には、呼吸中枢、血管運動中枢などがある
4. 小脳が障害されるとバランスをくずす失調が認められる

問 18 次の項目と成人の正常値の範囲内にある値との組み合わせで正しいものを選びなさい。

- a. 脈拍(安静時) 50回/分
- b. 呼吸数(安静時) 25回/分
- c. 血圧(安静時) 125/80mmHg
- d. 尿量 1,000ml/日

1 (a b) 2 (a c) 3 (b c) 4 (b d) 5 (c d)

問 19 体格指数 (Body Mass Index, BMI) を求める計算式として正しいものを選びなさい。

1. $BMI = (\text{体重 (kg)})^2 \times 22$
2. $BMI = (\text{身長 (m)})^2 \times 22$
3. $BMI = \text{体重 (kg)} \div (\text{身長 (m)})^2$
4. $BMI = \text{体重 (kg)} \div (\text{身長 (cm)})^2$
5. $BMI = \text{身長 (cm)} \div (\text{体重 (kg)})^2$

問 20 脱水症について次の記述のうち正しいものの組み合わせを選びなさい。

- a. 脱水症は下痢や嘔吐のほか、過度の利尿剤の服用によっても起こる
- b. 脱水症では意識障害をきたさない
- c. 脱水症では電解質の異常をきたすことがある
- d. 脱水症では水分を補給しない

1 (a b) 2 (a c) 3 (b c) 4 (b d) 5 (c d)

問 21 障害によって嚙声を生じる神経はどれか。一つ選びなさい。

1. 三叉神経
2. 顔面神経
3. 前庭神経
4. 反回神経
5. 舌下神経

問 22 反性球麻痺について正しいものを一つ選びなさい。

1. 延髄から出る運動神経や支配筋による症状である
2. 嚙下障害としては固形物の飲込みが先に障害される
3. 舌の萎縮を伴うことが多い
4. 鼻声や嚙声がみられる
5. 強制泣き・強制笑いなどの症状を伴うことがある

問 23 右利き患者が左大脳半球の脳梗塞をきたした際、認められない症状を一つ選びなさい。

1. 運動失語
2. 右片麻痺
3. 左半側空間失認(無視)
4. 観念失行
5. 肢節運動失行

問 24 筋萎縮性側索硬化症で認めにくい症状を一つ選びなさい。

1. 舌萎縮
2. 認知機能障害
3. 繊維束攣縮
4. 球麻痺
5. 呼吸障害

問 25 筋緊張性ジストロフィーで認めにくい症状を一つ選びなさい。

1. 舌萎縮
2. 認知機能障害
3. ミオトニア
4. 咀嚼筋筋力低下
5. 呼吸障害

問 26 認知症で前頭側頭型に特徴的な行動はどれか、一つ選びなさい。

1. 散歩に出かけて道に迷う
2. 人前で見知らぬ異性に抱きつく
3. ささいな事で怒りっぽくなる
4. 洗濯ものをきれいにたためなくなる
5. 鏡に映った自分に向かって話しかける

問 27 脳梗塞で片麻痺になった高齢者の端座位訓練時の援助で適切なものを一つ選びなさい。

1. 顎をあげるように声をかける
2. 足底を床につける
3. 本人の意欲がある限り続ける
4. 健側にオーバーテーブルを置く

問 28 脳卒中に伴う障害に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせを選びなさい。

- a. 失語症は、左片麻痺に伴うことが多い
- b. 半側空間無視は、右片麻痺に伴うことが多い
- c. 視覚とその認識の障害は、後頭葉の障害に起因することが多い
- d. 人格変化や情動障害は、前頭葉や側頭葉の障害に起因することが多い

1 (a b) 2 (a c) 3 (b c) 4 (b d) 5 (c d)

問 29 症状とその発現に關する病巣部位に關する次の記述のうち、正しいものの組み合わせを選びなさい。

- a. 右利きでは全失語は右大脳半球の病変で出現する
- b. 球麻痺は延髄の病変で出現する
- c. 右利きでは左半側空間失認は右大脳半球の病変で出現する
- d. 観念失行は脊髄の病変で出現する

1 (a c) 2 (a d) 3 (b c) 4 (b d) 5 (c d)

問 30 疾患とそれに関連する記述に關する次の組み合わせで誤っているものを一つ選びなさい。

- 1. 筋委縮性側索硬化症 運動ニューロン 球麻痺
- 2. 脳性麻痺 核黄疸 運動障害
- 3. 脊髄小脳変性症 老人斑 失調性歩行
- 4. 慢性閉塞性肺疾患 黒質 ヤール(Yahr)の重症度分類
- 5. 脊髄損傷 馬尾神経 間欠性跛行

問 31 神経・筋疾患に關する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- 1. 筋委縮性側索硬化症では、多くの場合、知的能力は障害されない
- 2. パーキンソン病では、脳内のドーパミンという神経伝達物質が増加している
- 3. 大多数のてんかん発作は、服薬によっても抑制できない
- 4. 小脳疾患では、自らの意思によって身体を動かすことができない麻痺症状を生じる
- 5. デュシェンヌ型進行性筋ジストロフィーは、女性に発症する遺伝性疾患である。

問 32 認知症に關する次の記述のうち、適当でないものを一つ選びなさい。

- 1. レビー小体型認知症では、幻視に比べ幻聴がより特徴的である
- 2. 感情失禁は、脳血管性認知症に特徴的な症状である
- 3. アルツハイマー型認知症では、症状として視空間認知機能障害を伴うことが多い
- 4. 多発脳梗塞性認知症は、いわゆる生活習慣病との関係が深い
- 5. ピック病では、反社会的なパーソナリティーの変化を生じることがある

問 33 脳血管性認知症とアルツハイマー型認知症の特徴に関する次の記述のうち、適切なものの組み合わせを選びなさい。

- a. 脳血管性認知症では、感情失禁を示すことが多い
- b. 脳血管性認知症では、段階的症状悪化が見られる
- c. アルツハイマー型認知症では、「まだら認知症」となる
- d. アルツハイマー型認知症では、人格変化が生じない

1 (a b) 2 (a c) 3 (b c) 4 (b d) 5 (c d)

問 34 レビー小体型認知症の特徴に関する次の記述のうち誤っているものを一つ選びなさい。

- 1. 初期には人格変化が目立つ
- 2. 進行性の認知機能障害である
- 3. 具体的な内容の幻視体験がある
- 4. パーキンソン症状がみられる
- 5. 注意力に著名な変動がみられる

問 35 アルツハイマー型認知症(AD)で最も早期に現れる症状を一つ選びなさい

- 1. 失語
- 2. 徘徊
- 3. 大食
- 4. 近時記憶障害
- 5. 遠隔記憶障害

()の中に当てはまるものを下の語句から選び番号を記入しなさい。(問36～問43)

問 36 側頭葉にある()及びその近傍の破壊により食物と非食物との区別が分からなくなる。

- 1. 黒質
- 2. 尾状核
- 3. 前庭核
- 4. 扁桃体
- 5. 視床

- 問 37 赤ん坊のおしゃぶりに似た異常反射を()という。
1. バビンスキー反射
 2. モロー反射
 3. 下顎反射
 4. 吸啜(てつ)反射
 5. 軟口蓋反射
- 問 38 認知症患者で、周囲にあるものを手当たり次第に口に持っていき、舐めたり嚙んだりすることを()傾向という。
1. 口唇
 2. 舌
 3. 軟口蓋
 4. 咽頭
 5. 食道
- 問 39 嗜好の変化、大食、非倫理的行動過多を初発とするタイプの認知症を()という。
1. アルツハイマー型認知症
 2. レビー小体型認知症
 3. 前頭側頭型認知症
 4. 多系統委縮症
 5. パーキンソン病
- 問 40 同じ年齢で発症し、合併症がなければ、発症から嚙下障害出現までの期間が最も長い神経変性疾患・変性型認知症は()である。
1. 進行性核上性麻痺
 2. アルツハイマー型認知症
 3. レビー小体型認知症
 4. 多系統委縮症
 5. 筋委縮性側索硬化症(ALS)

問 41 食膳の右半分しか手をつけない患者を見た際は、()を疑う。

1. 半側運動失調
2. 片側性パーキンソンニズム
3. 同名性半盲
4. 片麻痺
5. 半側空間失認

問 42 認知症に使われる薬剤の一つに()阻害剤がある。

1. アンジオテンシン変換酵素
2. アセチルコリン・エステラーゼ
3. アルコール脱水素酵素
4. クレアチン・キナーゼ
5. 芳香族アミノ酸脱炭酸酵素

問 43 島根大学医学部環境生理学教室の研究によると、不飽和脂肪酸の一種である()を多く含む魚肉ソーセージを摂取したグループでは、記憶力テストの改善が見られた。

1. ACE
2. CPK
3. DHA
4. GOT
5. PCR

問 44 嚥下で正しいのはどれか。正しい組み合わせを選びなさい。

- a. 嚥下反射の中樞は橋にある
- b. 口腔期に軟口蓋は上方移動する
- c. 咽頭期に喉頭が反射的に挙上する
- d. 嚥下反射時に呼吸は継続して行われる
- e. 食塊が食道に入る時、輪状咽頭筋は緊張する

1 (a b c) 2 (b c) 3 (d e) 4 (a c d e)

問 45 摂食・嚥下障害に関する記述で正しいものを一つ選びなさい。

- 1. 液体の誤嚥は少ない
- 2. 認知機能の影響は受けない
- 3. むせなければ誤嚥なしと判断する
- 4. 梨状窩は咽頭残留の好発部位である
- 5. 頸部前屈位は嚥下反射を遅延させる

問 46 嚥下障害の原因になりにくいものを一つ選びなさい。

- 1. 重症筋無力症
- 2. 進行性核上性麻痺
- 3. 脳腫瘍
- 4. てんかん
- 5. 多系統委縮症

問 47 脳血管障害による嚥下障害で正しくないものを一つ選びなさい。

- 1. 延髄など脳幹病変の場合は高率に嚥下障害をきたす
- 2. 両側大脳基底核に病変を認めた場合、嚥下障害をきたしやすい
- 3. 深部白質病変では舌の協調運動障害によって嚥下障害をきたす
- 4. 一側性の脳血管障害では、嚥下障害はみられない
- 5. 中脳から延髄までの病変では上下肢の麻痺と反対側の脳神経麻痺が見られることがある

問 48 パーキンソン病の摂食・嚥下障害の特徴について正しくないものを一つ選びなさい。

1. 姿勢時振戦による口への取り込み障害
2. 固縮による口腔期での咀嚼・舌運動障害
3. 頸部後屈により気道が開き、嚥下動作時の誤嚥がおきやすい
4. 嚥下反射遅延と喉頭閉鎖不全
5. 胃食道逆流を伴いやすい

問 49 嚥下障害のある患者に好ましくない薬剤を次のうちから一つ選びなさい。

1. ACE阻害薬
2. 塩酸アマンタジン
3. 抗精神病薬(メジャーランキライザー)
4. 葉酸
5. シロスタゾール

問 50 高齢者が餅で窒息しやすい原因で誤っているものを一つ選びなさい。

1. 歯の喪失
2. 咳嗽反射の亢進
3. 嚥下筋の筋力低下
4. 唾液分泌の減少

問 51 咀嚼時に食物が口腔外にこぼれるのを防ぐのに最も関与するのはどれか。一つ選びなさい。

1. 笑筋
2. 頬筋
3. 広頸筋
4. 口輪筋
5. 口角挙筋

問 52 誤嚥を示唆する症状でないものを一つ選びなさい。

1. 咳払いの持続
2. 痰の増加
3. 繰り返す熱発
4. 咽頭通の持続
5. 食事中的ムセ

問 53 高齢者の嚥下障害の特徴として正しい組み合わせを選びなさい。

- a. 女性に多い
- b. 喉頭残留が多い
- c. 不顕性誤嚥が多い
- d. 安静時の喉頭の位置が低い
- e. 口腔期障害は軽度である

1 (a b c) 2 (a b e) 3 (a d e) 4 (b c d) 5 (c d e)

問 54 嚥下第2期(咽頭期)にみられる現象で正しい組み合わせを選びなさい。

- a. 軟口蓋による鼻咽腔の閉鎖
- b. 甲状咽頭筋の弛緩による食道入口部の開大
- c. 食道の蠕動運動
- d. 中咽頭の内圧上昇
- e. 喉頭の挙上及び閉鎖

1 (a b c) 2 (a b e) 3 (a d e) 4 (b c d) 5 (c d e)

問 55 嚥下に関する次の記述で正しいものの組み合わせを選びなさい。

- a. 嚥下時には軟口蓋が挙上し、口腔と鼻腔の間を閉ざし、喉頭蓋が気管を塞ぐ
- b. 嚥下反射には主に顔面神経が関与する
- c. 誤嚥により起こる肺炎を、沈下性肺炎という
- d. 誤嚥した異物は、一般的に右肺の下葉に入りやすい

1 (a b c) 2 (a b) 3 (a d) 4 (b d) 5 (c d)

問 56 誤嚥性肺炎に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせを選びなさい。

- a. 基底核の脳梗塞患者では、誤嚥性肺炎をおこす危険性が高い
- b. 寝たきり患者では、不顕性誤嚥を生じやすい
- c. 鼻腔栄養法は誤嚥のリスクを下げる
- d. 口腔ケアは、肺炎発症の危険性を減少させる

1 (a b c) 2 (a b d) 3 (a d) 4 (b c) 5 (c d)

問 57 嚥下に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- 1. 一連の嚥下運動は、随意筋の作用でおこる
- 2. 高齢者において、嚥下障害による肺炎はまれである
- 3. 脳血管疾患は、嚥下障害の原因疾患の一つである
- 4. とろみをつけた食品は、誤嚥の原因となりやすい
- 5. 食事でむせる場合には、頸部を後屈すると軽快する

問 58 挺舌時、舌偏倚がみられるのはどの脳神経の障害か一つ選びなさい。

- 1. 顔面神経
- 2. 舌咽神経
- 3. 迷走神経
- 4. 副神経
- 5. 舌下神経

問 59 正しいものを一つ選びなさい。

- 1. 内舌筋は下顎内面に付着している
- 2. 外舌筋の運動は舌神経支配である
- 3. 舌先を左に移動させる時は右側の外舌筋が活動する
- 4. 母音生成時には外舌筋の活動が抑制される
- 5. オトガイ舌筋には舌を後下方に引く作用がある

問 60 誤嚥を防ぐための食事介助で適切なものを一つ選びなさい。

1. パサパサした食べ物を準備する
2. 患者の体位は、頸部後屈させ下顎を挙上させる
3. 食物を口に運んだスプーンは上方へ抜き取る
4. 飲み込んだのを確認してから、次の食物を口に入れる。

問 61 食事介助について正しいものを一つ選びなさい。

1. 時間がかかっても、食事の摂取量を確保することが大切である
2. 口腔期にのみ障害が認められ、咽頭通過に問題が無い場合、一口量を多くすると良い場合がある
3. 食事の見た目や味は嚥下機能に影響を及ぼさない
4. 座位での食事が最も食べやすい
5. エプロンは、衣類の汚れを防ぐためなるべく顎の下で止めるようにする

問 62 嚥下障害患者の食事について誤っているものを一つ選びなさい。

1. 液体でむせる場合には、なるべくトロミを強くする
2. ゼラチンゼリーは体温で溶解する
3. 口腔への取り込み障害がある場合、自助具が有効な場合がある
4. 一般的に口腔期障害では、液体の摂取が難しい
5. 意識が覚醒していない場合、誤嚥のリスクは高くなる

問 63 認知症患者の食事場面において誤った対応を一つ選びなさい。

1. 食器と食材のコントラストをはっきりさせる
2. 一つの食器にまとめて盛り付ける
3. 小鉢に少しずつ盛り付ける
4. 食形態は飲みやすいミキサー食が良い
5. 食事以外の物をテーブルの上に置かない

問 64 口腔ケアで適切なのはどれか一つ選びなさい。

1. 歯肉出血があっても実施する
2. 咳嗽のできない患者には禁忌である
3. 総義歯の場合、義歯の洗浄のみでよい
4. 経口摂取をしていない患者には不要である

問 65 口腔ケアで適切なものを一つ選びなさい。

1. 誤嚥性肺炎の予防のためにも徹底してきれいにするのが大切である
2. 嚥下障害患者の場合、誤嚥のリスクを避けるため水は使わない
3. 口腔過敏がある場合の脱感作は前歯部歯肉からおこなう
4. 口腔ケアに対する拒否がある場合、開口器を用いて開口を保持しケアを実施する
5. 口腔ケアを食事前に行う事は誤嚥性肺炎のリスク軽減に繋がる

問 66 次のうち口腔ケアの目的として誤っている物を一つ選びなさい。

1. 唾液分泌の抑制
2. 口臭の改善
3. 誤嚥性肺炎の予防
4. 歯周病の予防
5. 食欲の増進

問 67 嚥下訓練について誤っているものを一つ選びなさい。

1. プリンやヨーグルトは嚥下が容易なので嚥下訓練に適している
2. 汁物やお茶などは増粘剤を溶かして用いると良い
3. 体温と同じ温度の食べ物は嚥下反射をおこしにくいので嚥下訓練には適している
4. のどのアスマッサージは嚥下反射を誘発するのに有効である
5. 横向き嚥下により咽頭に残留した食塊を除去することができる

問 68 嚥下訓練で正しい組み合わせはどれか選びなさい。

1. タ行、ダ行の構音訓練 舌による食塊の移送
2. プッシングエクササイズ 呼吸と嚥下のリズム
3. カ行、ガ行の構音訓練 声門閉鎖
4. 顎引き嚥下 口腔内保持機能
5. 息こらえ嚥下 呼吸と嚥下のリズム

問 69 気管カニューレ装用患者の嚥下訓練について正しい組み合わせを選びなさい。

- a. カフの過膨張は食塊の通過を制限しない
- b. 吸引を頻回に行う
- c. カフ無しカニューレは誤嚥の可能性がある
- d. カニューレの種類の違いは嚥下機能に影響を及ぼさない
- e. カニューレの交換を頻回に行う必要がある

1 (a b) 2 (a e) 3 (b c) 4 (c d) 5 (d e)

問 70 口腔の自浄作用と関係があるものを一つ選びなさい。

1. 唾液
2. マッサージ
3. フロッシング
4. ブラッシング
5. 洗口

問 71 下記症例において、最も可能性の高い診断名を一つ選びなさい。

- ・75歳男性。
- ・慢性胃炎、境界型糖尿病でI病院に定期的に通院中。
- ・最近お茶漬けを食べている時に咽ることが多くなったので診てほしいと外来受診。
- ・検査結果：
 - ・口腔環境良好
 - ・呼吸数30回/分
 - ・鼻咽腔閉鎖機能：良好(不全なし)
 - ・構音運動機能：良好。
 - ・嚥下機能水飲みテストでは3mLの水を3回に分けて嚥下
 - ・ムセ(+)
 - ・フードテストでは5-7回に分けて嚥下
 - ・VF所見にて食道入口部に食塊の残留あり
 - ・脳梗塞の既往なし。
 - ・BP106/70mmHg
 - ・喫煙歴16本/日

1. 脳梗塞
2. アルツハイマー型認知症
3. ALS
4. 骨棘
5. 廃用性の機能低下

問 72 下記症例において、不適切と思われるアプローチの組み合わせを選びなさい。

- ・78歳女性。
- ・自宅で倒れているところを発見。救急車で病院に搬送される
- ・診断名
 - ・左側大脳半球広範囲の脳梗塞
 - ・右片麻痺、失語症、嚥下障害
 - ・車椅子移乗可能
- ・VF所見
 - 口腔にためて送り込みできず、しばらく口腔内に保持。口唇から流出あり。
 - 咽頭に送り込まれた食塊の嚥下は可能。誤嚥は認めない。

- a. 座位耐性獲得を図り、口腔ケアを進める
- b. VF上誤嚥はないがリスクは高いので、一切経口摂取は禁じる。
- c. リクライニング位での経口摂取を検討する
- d. 失語症があるので訓練はあきらめる
- e. 発熱がある日は経過を見ながら、舌の他動訓練を進める

1 (a c) 2 (a d) 3 (b e) 4 (b d) 5 (c d)